

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0895100055		
法人名	株式会社 メディカルアシスト		
事業所名	グループホーム 湖畔の家 梅の花		
所在地	茨城県桜川市上野原地新田112-1		
自己評価作成日	2021年12月5日	評価結果市町村受理日	2022年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0895100055-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2022年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

上野沼のほとりに建ち、筑波山や加波山が見える自然環境にあるグループホームです。コロナ禍で外出や家族様の面会などには制限がありますが、四季折々の行事や季節・土地がらにあった食事を提供し、楽しんでいただいています。会社の理念の他に、職員が施設内目標を考え、支援にあたっています。認知症を理解し、入居者様一人ひとりのペースや状態に合わせた対応を心掛け、家庭的な雰囲気や保てるよう、家族様との繋がりがりも大切にしています。毎年楽しみにいただいている柿狩りは、今年は実りも少なく職員と入居者様で行いましたが、家族様はどんな時も協力して下さり、家族様と職員が一体になって入居者様の支援にあたっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に、メディカルアシストの基本理念と湖畔の家の目標を唱和し、職員は理念・目標を常に意識して、コロナ禍ではあるが家族様・地域との繋がりを大切に業務に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で行動制限があり、同地区の障害者施設の行事参加、上野沼への散歩もできないているが、桜川市の花いっぱい運動には参加している。いつでも平常時になれば、地域の一員として対応できるように準備している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の人々に向けての活動は困難ではあるが、桜川市の花いっぱい運動に参加させて頂き、施設を知ってもらえるように活動している。区長様・民生委員様には施設報告を書面で行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で会議開催はできず、書面でご報告を行い、ご意見等は制限付面会時や電話連絡で伺い、カンファレンス・担当者会議などで話し合いをし、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の書面ご報告、生活保護者の担当者様にケアプラン提出時等に現状報告をし、協力関係を築けるよう取り組んでいる。分からないことなど何かあれば、市の担当者様にその都度ご相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は勉強会を行い、身体拘束について理解し、入居者様一人ひとりの行動を把握・対応を話し合っている。安全のために、玄関には補助錠・チャイムも使用し、出入りがわかるようにしている。補助錠、壁+ベッド柵2点使用の身体拘束をケガ事故の危険が伴う為に行っている入居者様には同意書を交わしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で、虐待についての勉強会を開き、職員は入居者様の立場で、介助にあたるように心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政担当者様から情報をいただき、必要のある方は関係機関と話し合いの上、活用できるよう支援している。成年後見制度の手続きに必要な書類作成に協力しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書・パンフレットを用いて、ご本人・ご家族の不安や疑問を取り除くよう、十分な説明を行い、理解と納得を得ている。また、改定時は文書等にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時などにご家族とコミュニケーションを図り、苦情や気付いた点などを話していただけるように努力している。意見はその都度職員間で話し合い、運営に役立てている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部代表者が月1回のミーティングに参加し、意見や提案を聞き、業務に反映させている。施設内環境整備についても、職員の意見を聞いて対応をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面接や自己評価等を通して、職員個々の状況を把握し、できるだけ希望に沿った環境にできるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のミーティングで、事例検討(ヒヤリハットや症例等)や介護技術、研修報告を行い、その都度必要な勉強会を実施するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で、他施設との情報交換や交流は電話等で行っているような状況である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の助け合いから信頼関係を築く。入居者様が話しやすい環境を作り、傾聴・共感することで、良い関係を作ろうと日々努めている。また、接する際にご家族の名前を出し、安心して生活できるように考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍ではあるが、施設見学・入居相談・面会等、その都度ご家族に声掛け、近況をご報告し、不安なことやご要望等を話していただけるように努めている。小さなことでも情報を交換し、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時、ご家族からの不安な思いやご希望等を傾聴し、話をするようにしている。ご家族やご本人のご状況を考え、必要としているサービスをご紹介できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などの生活を共にすることで、お互いを助け合う関係と考え、業務にあたっている。また、人生の先輩として生活の知恵や風習等を教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子を面会時や電話で報告・説明している。ご家族に相談することで、共に支えていく関係ができるように努めている。ご家族が自宅にいた時に好んでいた物を差し入れて下さったり、入所後もご家族との絆を大切に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご親戚、ご友人の方など馴染みの方が来所された際はコミュニケーションがとれるよう支援し、気軽に面会に来ていただけるような雰囲気作りを心掛けていたが、コロナ禍にあり、ご面会も制限付きでお願いしているが、少しでもお会いしていただけるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がどのような関係にあるか把握し、テーブル席の位置を配慮するなど円滑に関わり合いができるよう支援している。入居者様同士が居室内で仲良くお話しができるようにも、職員が様子観察し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族の気持ちに配慮しながら、ご家族との関係を継続し、必要であれば相談に応じ、支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望にできるだけ応えるように努めている。日々の生活から感じ取ったり、話していただけるように努力している。困難な方には、入居者様の表情や寄り添うことで思いがわかるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設見学、入所時や面会時などに、ご家族から話を聞いたり、ご本人に聞いてアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのできること、やりたいことを把握し、一緒に一日の過ごし方を考えている。職員間で状態チェックや気付いたことなどをケース記録・連絡帳・勤務中に話し合い情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の意見を聞き、ケアプランの見直しを行う。ご家族やご本人から聞き取りをし、ケアマネや計画作成担当者を中心に話し合い、現状にあった介護計画の作成に努めている。今年度、介護実践者研修を受講した職員がいて、チームでつくる介護計画・モニタリングの大切さを再認識しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の生活の流れに沿った記録を行っている。ケース記録や日報、申し送りノートを活用し、職員間の情報共有を図り、実践や介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科の手配、連携病院外のかかりつけ病院受診時に情報報告書の提出、入居者様やご家族の状況の変化やニーズに合わせたサービスに対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	上野沼の散歩を中心に市内の行事など外出する機会を設けるようにしていたり、運営推進会議にて民生員に働きかけ、地域と連携していけるように努めてきたが、今はコロナ禍で桜川市の花いっぱい運動の参加で安全に楽しみのある暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受診していた医療機関に継続して受診ができるよう支援している。また、ご家族が対応できるご状況の方には、ご家族の方に通院の対応を行ってもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を算定している。健康管理を中心にケガや体調不良時等に診てもらいたい対応の指示や病院受診の相談、退院後の対応の仕方など教えてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と入院時やその都度、情報交換を行っている。職員へも随時経過報告を行い、情報の共有と退院後の対応の変更などを意識付けに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重要事項説明書で重度化の指針を説明している。また、重度化した場合は、入居者様やご家族と話し合い、意向に添えるように医療機関と連携し対応している。 施設での生活を長く送っていただけるように、ご家族とよく話し合い、支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を通して応急手当や初期対応の訓練を行い、緊急時のマニュアルの整備を行い、冷静に対応できる体制をとっている。 緊急時の希望受診病院をご家族から聞いて、備えにもしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍で消防署立ち合いの避難訓練は行うことができていないが、自主訓練で昼夜の訓練を行っている。梅の花に非常口が2つできたので、それを使った訓練の実施、実際にどう動くべきか等、反省も行き、対応についての意識を常に持っている。ご家族参加の訓練を行うこともある。近くにお住まいのご家族は何かあれば駆け付けてくださる協力体制もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のタイミングに合わせた排泄の声掛けを行い、トイレの戸を閉めることや居室入室にはノックをするなど、プライバシーに配慮し支援している。広報紙への写真掲載等については「家族様に同意を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や行動などから思いや希望をくみ取るようにし、自己決定や希望が実現できるように支援している。そのような支援を行い、入居者様の思いが表現しやすくなったりすることに繋がっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナ禍で散歩・外出などは制限を設けている状況ではあるが、入居者様のその日の体調や気分に合わせて返事のしやすい声掛けをし、希望にそった過ごし方を選んで頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用して頂いている。カットだけでなく、パーマを希望される入居者様には叶えられるようお願いをし、その人らしさを大切にしている。衣類は基本的にはご本人に選んで頂き、介助が必要な方には、ご本人ご家族が望むように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方、その時の体調等に合った形態で提供し、食しやすく、美味しく召し上がって頂けるようにしている。食事中は音楽を流すなどをし、ゆったりとした時間になるようにしている。食器拭きを一緒に行う。レクリエーションでおやつ作りを楽しむこともある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者を利用し、栄養管理もされている。食事量・水分量はその都度チェックし、記録している。摂れない方には、好きなもので提供することもある。摂取が困難な場合は、ご家族に相談して栄養補助について一緒に考え、バランスがとれるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科受診し、アドバイスをもらい、食後の口腔ケアを実施している。一人ひとりに合わせたブラッシングの介助や手伝いをし、口腔内のチェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の介助を基本とし、排泄チェック表を活用して入居者様のパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。入院などでオムツ使用になって戻られた後も改善できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や生活への影響を職員は理解している。朝礼・終礼に申し送る。排泄チェック表を活用して、飲食物(牛乳、食物繊維のある食べ物、オリゴ糖など)や運動をすすめ、薬に頼るだけでなく便秘解消に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回で曜日も特別のことがない限り固定されているが、体調や気分などその時の状態を考慮して入浴を楽しめるように支援している。脱衣所にはエアコン・床暖房があり、ヒートショック予防をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期でシーツ交換や布団乾燥機を使用している。居室の清掃や換気、温度調整に配慮して安眠できるようにしている。その方に合った休息、昼寝等をして頂き、眠れない時には一緒にテレビを観たり、ゆっくり話をしたりして、安心して気持ちよく休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような薬を内服しているか、説明書をファイリングして確認している。その方に合った内服介助を行い、確実に内服されたかの確認を行っている。何か変化があれば、医師・薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食器拭き、洗濯物たたみなど得意なことを役割にしている。また、レクリエーション・行事・季節の食事メニューなどを実施し、日々楽しみのある生活をと考え支援している。		

茨城県 グループホーム湖畔の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で戸外に出掛けることは通院などと限られた状況である。施設敷地内で柿狩り、お日様の下で体操やお茶を楽しんで頂くなどをし、外出支援とはいかないが気分転換になればと考え行うことがある。制限が緩和されることを皆で願っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設側でお金(おこづかい)をお預かりしているが、入居者様の中には硬貨の入ったお財布を持っている方がいます。欲しい物がある時には、職員と一緒に出掛け、買い物をし、お支払いもできる方にはして頂いていたが、コロナ禍の中では外出することができない為、チケットを使用して好きなおやつと交換するイベントを行ったりして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら手紙を書かれる入居者様もいらつしやり、投函は職員がさせて頂いている。ご家族と相談し、電話でお話して頂く支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間では仲の良い方と会話が楽しめるように座り、陽当りよく明るく居心地よい生活環境を整えられるよう心掛けている。入居者様がレクリエーションで制作した作品を飾って、他者様の作品を見て「上手にできている」などの感想をお聞きすることもできる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や談話スペースなど、くつろげる場所があり、思い思いに食堂や居室で過ごすことができるように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や衣類等を持って来て頂き、ご家族の写真や手紙、誕生日に入居者様・職員と一緒に作ったお祝い色紙などを飾り、居心地よく過ごせるようご家族と一緒にレイアウトしている。ケガ事故防止の為、収納はできる限り押入れに入れて頂いている。		

茨城県 グループホーム湖畔の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は玄関以外は段差はない。廊下、トイレ、浴室など必要な場所には手すりがついている。居室には入居者様・ご家族様の希望で表札、共有スペースなどがわかりやすいように工夫している。		